水泳授業について（指導方法、設備等）

戸田市教育委員会
教　育　政　策　室

県内児童の泳力の状況

対象：各教育事務所管内の抽出校
（全小学校の約２０％）の第５・６学年

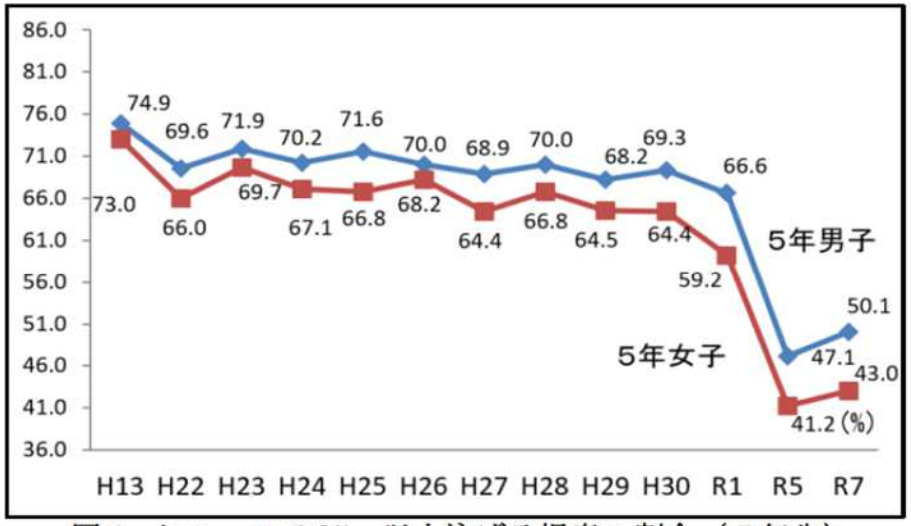


図１　クロールで25m以上泳げる児童の割合（５年生）

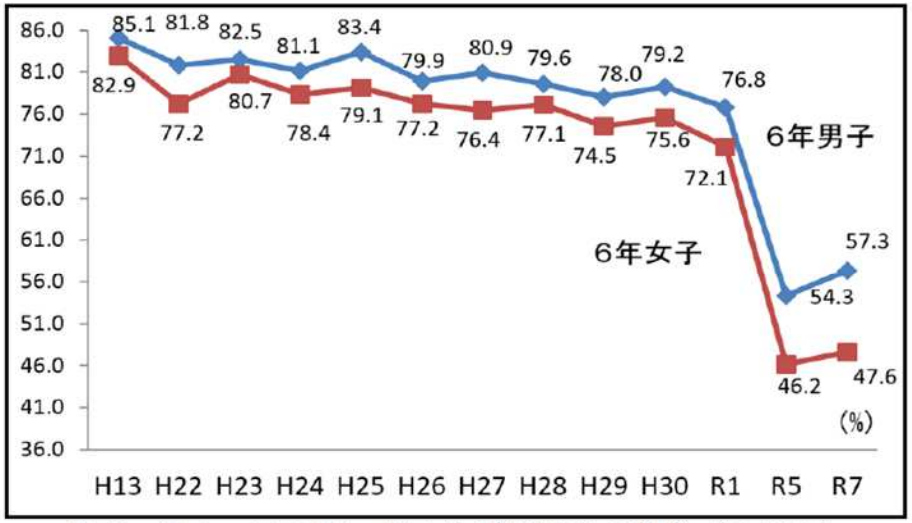


図２　クロールで25m以上泳げる児童の割合（６年生）

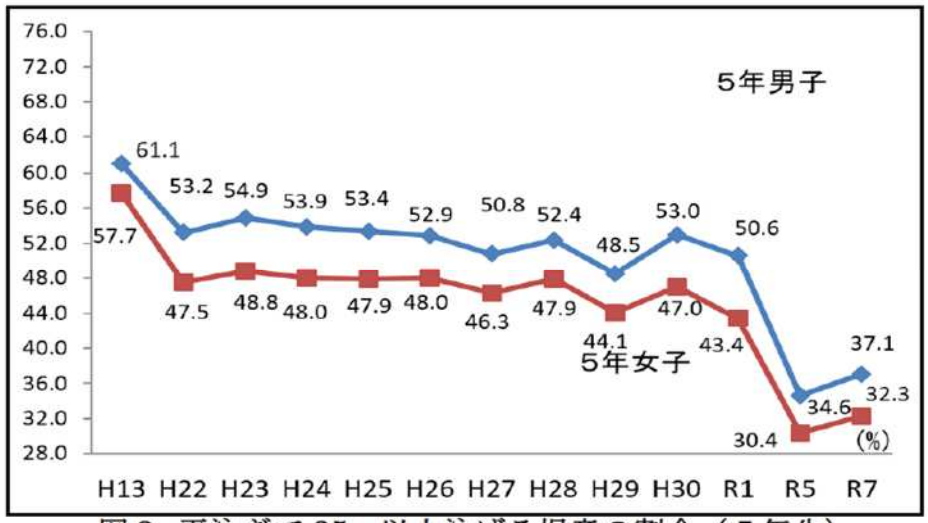


図３　平泳ぎで25m以上泳げる児童の割合（５年生）

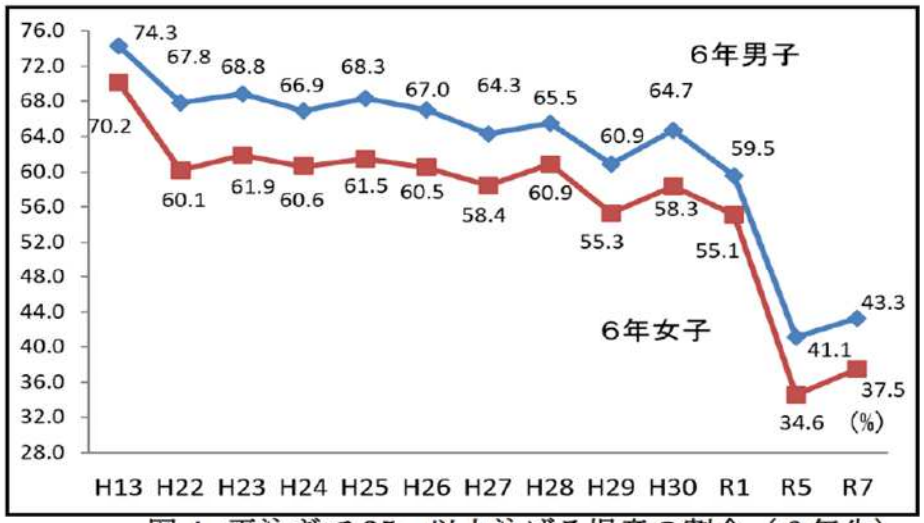
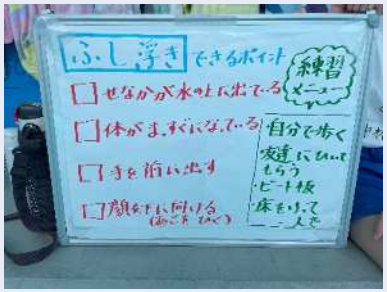


図４　平泳ぎで25m以上泳げる児童の割合（６年生）

これまでは抽出校による隔年実施のため、戸田市のデータはない
※令和８年度は県内小学校の全校で実施

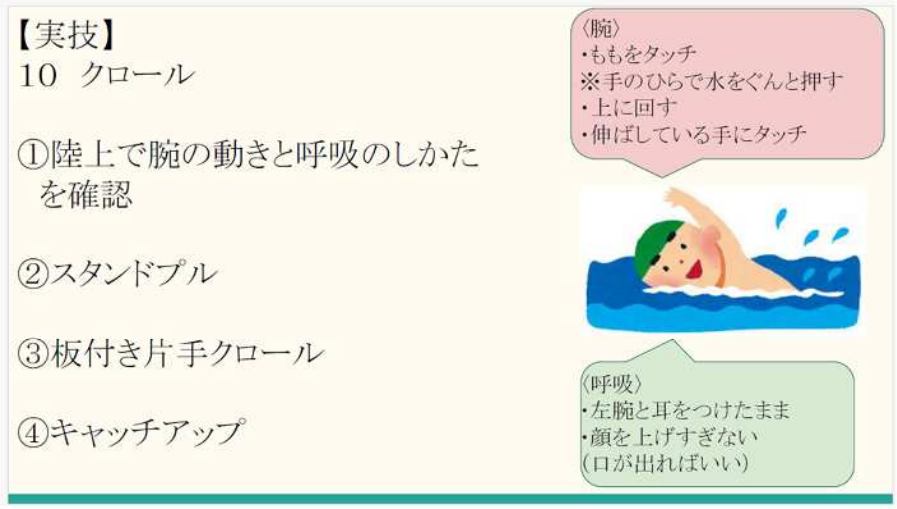
出典：令和８年度学校体育必携　児童の「水泳運動（クロール、平泳ぎ）の技能に関する調査結果」

発達段階による指導の系統性

	領域の構成と 指導のポイント	具体的な学習活動
低学年	水遊び ・水の中を移動する運動遊び ・もぐる・浮く運動遊び **「水に慣れ、楽しむ」**	○水の中を歩く・走る、顔をつける、水中で息を吐く、だるま浮きなどで水に慣れる ○もぐったり浮いたりする体験を通じて、全身で水と遊ぶ楽しさを味わう 
中学年	水泳運動 ・浮いて進む運動 ・もぐる・浮く運動 **「泳ぎの基礎を身に付ける」**	○けのび、ばた足、かえる足泳ぎなどの初歩的な動きを身に付ける ○もぐったり浮いたりすることに慣れ、泳ぎにつながる感覚を養う 
高学年	水泳運動 ・クロール　・平泳ぎ ・安全確保につながる運動 **「泳法の習得と安全確保」**	○クロールと平泳ぎの技能を向上させ続けて長く泳ぐ ○水難事故防止の安全確保につながる動きを学ぶ  戸田市消防署と連携した着衣泳の授業 （美谷本小学校）
中学校	水泳運動 ・クロール　・平泳ぎ ・背泳ぎ　・バタフライ **「泳法の改善と自己解決」**	○クロール、平泳ぎ、背泳ぎなどの泳法を洗練させて効率よく続けて長く泳ぐ ○科学的なアプローチで課題を解決する力や、水難事故防止の自己保全および救助の心得を学ぶ

指導力向上に向けた取組（水泳実技伝達講習会）







県の講習会を受講した教員が
講師となって、各学校の代表教員に伝達

▼

それぞれ自校で伝達

指導方法の工夫の例

【ICTの活用】

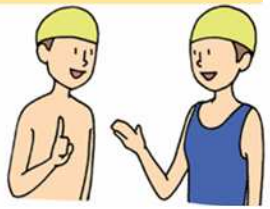
①（事前に）手本動画を見る⇒②泳ぎを撮影する⇒③動きを確認する



【習熟度別学習】

①泳力や泳法など、個々の進度に応じてコースを選択

②ペアになって補助し合ったり、教え合ったりしながら学習する





水泳授業民間委託について



実施校：戸田南小学校
理　由：プール老朽化のため
場　所：ジェクサー戸田公園（徒歩３分）
時　期：５月～１２月
回　数：各学年４回（８時間相当）





【メリット】
◯指導の充実：スイミングスクールの専門コーチによるきめ細やかな指導
◯環境の改善：屋内プールのため、天候不良や熱中症の心配がない
◯負担の軽減：プールの維持管理や指導の負担が減る　※学習評価は教員が実施

【課題】
▲プールまでの距離が遠い場合、移動に時間がかかり、授業時数確保が難しい
▲徒歩での移動が難しい場合は、借上げバスの確保や費用が課題となる
▲受け皿となる施設が少なく、全校での事業展開がすぐに実現できない

屋外プールの安全・暑さ対策の例

プールサイドに
水筒持参

活動前に
プールサイドに散水

適宜注水して
水温を調整

見学者は日陰で見学
または別室で学習

涼しい時期や
涼しい時間帯に実施

暑さを避けて
２学期プール開始

一部に
簡易テント設置

保護者ボランティア
による見守り